

まっすぐに社会と向き合いジョンソン・

地域の問題を地域の人々と解決していきたいという考えから、ジョンソン・エンド・ジョンソン(以下、J&J)の社会貢献活動は、非営利団NPOと信頼関係を結び、プログラムを一貫して支えるのが私たちの役割です。

活動の流れ NPOとの協働

1

社会問題の見極めと支援対象の決定

現在の社会の中で、特に支援を必要としている対象は誰か社会貢献委員会メンバーで話し合います。日本のJ&Jでは、子ども、女性、こころ、高齢者の4つの領域を中心に活動を進めています。

2

各カテゴリーで起きている問題の精査

4つの領域の中で実際にどのような問題が起きているのかを調査します。例えば子どもの領域では、子どもの死亡理由の上位に不慮の事故があります。これは、知識を持っていれば予防できる事故であるということがわかりました。このような問題を一つひとつ洗い出していきます。

3

解決方法の検討・NPOの選定

あげられた問題を解決するためにどのような方法が考えられるか検討します。そしてその解決方法を協働で実践できる団体を探します。選定の際には、その分野に詳しい学識関係者にアドバイスを求める場合もあります。J&Jと思いを共有できる団体と協働を開始します。



NPOとの協働で私たちが重視すること

① お互いの思いを共有する

団体と私たちJ&Jが同じ問題意識を持ち、それぞれの社会貢献活動の考え方を理解できるかが大切になります。思いを共有できていなければ方向性を明確にすることはできず、成果にもつながりません。

② 明確で具体的な目標を設定する

団体と協働する際、J&Jは「目標を設定する」ことを重要視しています。目標を定めることで、達成のために何が必要か、どのような障害があるのかが分かるからです。それらを見極め、適切な支援内容を検討していきます。

③ 活動内容を検証する

目標を達成して成果に結びつけるためにも、活動内容の検証・見直しを重視しています。J&Jは活動によって人々に貢献し、社会に変化が起きることを目指しています。目標の達成を目指し、綿密な計画を立てながら活動を進めていきます。

エンド・ジョンソンらしい活動をしたい

体(NPO)と協働で行われます。

4 目標設定・スケジュールリング・活動開始

団体と協議しながら、活動内容・支援内容を決めていきます。この際、明確な目標設定をし、達成までの綿密なスケジュールリングを組むことを理想としています。

5 社員の参加

活動を進めている中で、「マーケティングの知識が必要」「ホームページやシステムの運営にコストがかかりすぎている」などの課題があがった場合は、J&J社員が活動に関して、保有するスキルを生かすこともあります。その他、その活動に共感した社員は自主的にかかわっていきます。

6 活動内容検証

活動開始後、定期的に団体と打ち合わせを行い、進捗度を確認します。J&Jのメンバーが活動内容を検証し、より効果的な活動を実施するための提案をします。



確実に目標を達成できる支援を



私たちが生活する地域にある社会問題を、地域の人々と解決していこうという方針で、地域の非営利団体とパートナーシップを結んでいます。

社会問題が生まれる根本的・構造的な問題解決へ向けた支援を通して、ニーズ自体が発生しないための仕組み作りや、問題に直面している人々の生活が将来的によりものになるための働きかけが重要です。我々の限りある資源をより多くの支援を必

要としている人々に届けたい、そういった思いから、団体とより効果的な活動ができるよう、継続的に団体と関わり、広く社会に根付くような将来展望や、年間の活動計画を明確にし、プログラムの効果測定や改善を団体と一緒にしながら、確実に目標を達成していくための支援を目指しています。

ジョンソン・エンド・ジョンソン
社会貢献委員会 リーダー
ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
ビジョンケアカンパニー 川上佳昭